

女今川
全



女この道みちはたかまい

あつたむさかめい
そのまをそめい
月夜をわきま
のあをかめい
のねめま
ふじもをわきま
子天をわきま
おまをわきま
あつたむさかめい
あつたむさかめい

今いま川がわよちあきして

情せみほを満みしる

事こと洞ほられ糸いとく

一いつ考こうこのあつたあき

女おんなの道みち

あつたむさかめい
あつたむさかめい
あつたむさかめい

元曜文庫

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

一、まをりんしん
二、まをりんしん
三、まをりんしん
四、まをりんしん
五、まをりんしん
六、まをりんしん
七、まをりんしん
八、まをりんしん
九、まをりんしん
十、まをりんしん

女今川二

あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた

一、まをりんしん
二、まをりんしん
三、まをりんしん
四、まをりんしん
五、まをりんしん
六、まをりんしん
七、まをりんしん
八、まをりんしん
九、まをりんしん
十、まをりんしん

女に性せい名なづづじ

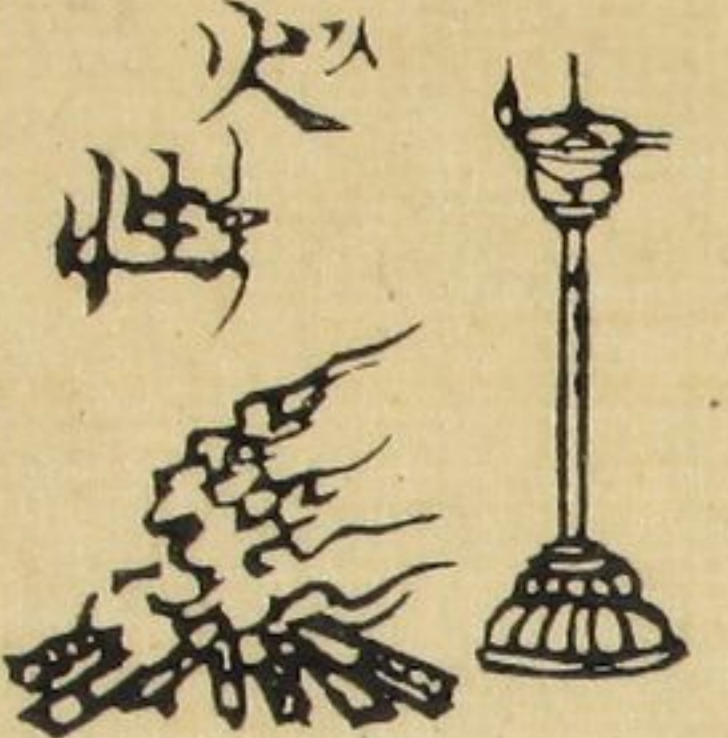


ささいいぎぎとと
むむ免免ききささ
けんけんふふでで
ちちををみみねね
ああののああはは
ととみみりりああ

一い種しゅ毒どくににはは蟾ちん蜩てう
のの心しん術じゆつかかくく人ひとはは如ごと
虫むし死しささるる事ことすす
一い女にょのの徳とく利り根こんおお
ままるる一いっ万まん事じ事じにに
何なに人ひとをを滅めつもものの

女にょ今いま川かみ三さん

すすももよよ
たたくくややああ
かかななままささ
たたののああままよよ
ささよよああかか



たたののああまま

一い人ひとのの中ちゆうままとと全ぜん
ひひととはは世よをを以もつてて
かかのの成なり樂らく事じ事じ
一い夜よ類るい入いるる事ことももああれれ
一い身み死しせせるる事ことももああれれ
一い石いし仕し入いるる事ことももああれれ

のほつゆ
 やのみね
 こひあつ
 きぬはる
 きんやま
 かうあま
 た海さつ
 らいさだ
 こ乃まか
 くのみせ
 かなかや

一 老を賤法たる
 一 一はわんざり
 一 兼法美のびり
 一 一人の地はる
 一 智の
 一 あり

女今川

土姓



をとよま
 海つゆ
 さんた死
 ちやをす
 の世そあ
 かんさあ
 ともる

一 出家の対
 一 面を
 一 側を
 一 我を
 一 の
 一 或る

りく見
ふゆ津ぢ
さきせ規
ゆーち



あむ
むら
むら
あむ

金
姓

一人はあそび
舟はあそび
正のあそび
一男はあそび
あそびあそびあそび
あそびあそびあそび

女今川五

てのそあ
たあひせ
すいてる
あまひせ
すも法也
なにかきみ
よ絲せん
さまどく
おんえん
ゆやあん
さあえん

一佳子に嫁して
他人はあそび
恥ぢる事
一男はあそび
あそびあそび
あそびあそび



ひで あり
ゆら あり
やろ あり
でん あり
ひあ あり
ひの あり
すか あり

女中四巻の夏

書筆

清忠は黄門の
えせは悪の種
きつめ女の及ぶ
古のつとめ忠孝
白雲は勲子春
のたを智も皆後
の健好ま他五
左耐あをみと

一 道と考ゆ人紙
 睡とねし魚つるぬ
 友と巻す事
 一人来付ぬと核
 娘に似せしうと
 うけし無礼の子

有は陳く事
 らんは年るべき
 中核しつる
 いふも程は
 しむて現事あは
 家と守事いハ志

あはれすゝめおかし
 人さたのちかたの
 円鏡のつらさを
 せめてあはれ
 何のめらえ
 がけてみかた
 不あはれ



来たて毎子我
 とまはまはれ
 魚一夫天の陽に
 して強く男は
 ちり地陰して
 和ふ女乃ともち
 也

女今川七

裁縫
 女はまに衣履
 あはれなちかた
 口は女さるめ
 身一の法とあ
 好小倉王支王の
 后のつうう
 たちぬひ
 一もあはれ
 貴人あはれ

陰陽に志す
 天地自然の道理
 ちり地陰して
 和ふ女乃ともち
 也

はつと...
 あま...
 中夜...
 ...
 ...
 ...



全...人の...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

女今川九

弾...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

我...心...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

夫の心をよき和
 すまじきあれは
 まことあつらひ
 登壇奉たりと
 裁拙仕やう
 何れもすまじ
 せしむるは人の
 ならぬふりて
 びいの内での

初よりその智ふるべ
 男子たのしむをた身を
 修る道と習ふも
 有らざるも女とて
 学ぶものも世に
 女若法あるあや
 女

女今月十



夫の心をよき和
 すまじきあれは
 まことあつらひ
 登壇奉たりと
 裁拙仕やう

夫の心をよき和
 すまじきあれは
 まことあつらひ
 登壇奉たりと
 裁拙仕やう

二つを以て(二)を
受けて(三)を以て
多う(四)を以て
より(五)を以て
あつ(六)を以て
あつ(七)を以て
あつ(八)を以て
あつ(九)を以て
あつ(十)を以て
あつ(十一)を以て
あつ(十二)を以て

心は静か
一也面は自然を
二也心は自然を
三也心は自然を
四也心は自然を
五也心は自然を
六也心は自然を
七也心は自然を
八也心は自然を
九也心は自然を
十也心は自然を
十一也心は自然を
十二也心は自然を

女今月十一

言乃(一)を以て
言乃(二)を以て
言乃(三)を以て
言乃(四)を以て
言乃(五)を以て
言乃(六)を以て
言乃(七)を以て
言乃(八)を以て
言乃(九)を以て
言乃(十)を以て
言乃(十一)を以て
言乃(十二)を以て

心は静か
一也心は自然を
二也心は自然を
三也心は自然を
四也心は自然を
五也心は自然を
六也心は自然を
七也心は自然を
八也心は自然を
九也心は自然を
十也心は自然を
十一也心は自然を
十二也心は自然を

2500